

授業科目 介護実習

【担当教員名】 岡田 史	対象学年 1	対象学科 社会
	開講時期 後期	必修・選択 選択
	単位数 2	時間数 30

＜一般目標：G I O＞

実際の介護場面における、ニーズの発見とその課題解決能力を演習を中心とした授業で身に付けることを目的とする。特に、コミュニケーションに重点を置き、利用者理解の視点を育てる。

＜行動目標：S B O＞

1. アセスメントについてその視点について理解できる。
2. 利用者中心のサービス提供を目的とした観察に基づいたアセスメントができる。
3. 高齢者、障害者その家族をコミュニケーションを通して理解できる。
4. 高齢者、障害者への生活支援としての介護技術が身に付く。
5. 身体の機能を理解し、移動や移乗についての介護技術が身に付く。
6. 緊急時の対応について、実際に行うことができる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
	生活領域の拡大		
1	・移動を中心とした介護技術について理解し実際に行う。	4・5	演習
2	・生活領域の拡大を目指した介護技術の展開ができる。	4・5	演習
3	・排泄についてその理解し、介護が実践できる。	4・5	演習
4	・食事についてその理解し、介護が実践できる。	4・5	演習
5	・入浴、身体の清潔について理解し、介護が実践できる。	4・5	演習
6	・介護技術振り返り	4・6	演習
	観察とアセスメント		
7	・生活観察の視点を持つことができる。	1・2	演習
8	・在宅生活でのアセスメントの視点を持つことができる。	1・2	演習
9	・施設生活でのアセスメントの視点を持つことができる。	1・2	演習
10	・他の専門職種との連携したケアプランについて理解できる。	1・2	演習
	介護におけるコミュニケーション		
11	・介護実践におけるコミュニケーションに習熟する。	3	演習
12	・閉じられた質問、開かれた質問によってコミュニケーションできる。	3	演習
13	・相手を理解するためのコミュニケーション技法が身に付く。	3	演習
	介護における予防的視点		
14	・救急法その他危険時の対応	6	演習

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書 (必ず購入する書籍)	なし			
参考書	必要時推薦します。			
その他の資料	随時配布いたします。			

【評価方法】 出席および授業態度 試験	【履修上の留意点】 体を動かす実技実習が多いので、動きやすい服装で出席してください。
---------------------------	---